

# てこな・ミュージズ・ジャーナル

## クラシック演奏会で 掛け声!

### 演奏会がいっぱい

先日、市川でもおなじみの東京交響楽団の演奏会を聞きにサントリー・ホールへ行きました。入り口近くでもらったチラシの多かったこと。厚さ2センチ近く、ビニールの袋はずしりとした重み。帰って秤に乗せてみると、なんと、850グラムもあるのです。数えてみると、80枚近く!中には冊子も入っていて100以上の演奏会情報を一挙に手にしたということになるのです。しのぎを削る演奏会がいかに東京近郊で多いとはいえ、地元市川で聞くことのできる上質な演奏会は地域の方々への文化的還元として必要不可欠なもの、それが財団の使命だと私も思っております。ですから、市川市文化振興財団では多くの工夫を重ねて、独自の演奏会企画をしているのです。

### 金聖響さんとジャズ

少し前のことになりましたが、9月24日(月休)の東京フィルハーモニー交響楽団演奏会についてお話ししましょう。指揮は金聖響さん。曲目は椎名豊ジャズトリオによるガーシュインの<ラブソディ・イン・ブルー>とドヴォルザークの9番<新世界より>など。ジャズの楽しさを味わって、そして親しみのある交響曲で締めくくる。クラシックに限らないファン、年齢層も幅広い方々でホールをいっぱいにしたいと願って企画しました。

### 「危険な」演奏会

演奏会は大成功。1500人の聴衆の方々で、会場はとても活気にあふれました。ガーシュインのジャズトリオの演奏前にお願した金さんと椎名さんのトーク。金さんの軽妙洒脱な関西アクセントと、どこかひょうひょうとした椎名さんのお話の楽しさで、<ラブソディ>トリオ版への期待はどんどん膨らんでいきます。「ジャズは即興に富んでいて楽しい。でも、オーケストラが入りそこなう危険があるんです」と、金さんは半ば冗談、でもかなり真剣なご様子に会場はシーンとなりました。きちんと合図くださいね、と駄目押しをなさってお話を締めくくられたのが、とても印象に残ります。といいますのは、前の日、オペラシティリハーサル室での合わせ、さらに演奏会当日のここ大ホールでのゲネプロでも、同じような「事件」が起きてい

市川市文化振興財団 文化芸術専門員 小坂 裕子

たからです。椎名トリオ演奏とオーケストラが合い損なってはやり直す、そんな事件は譜面のあるクラシック演奏会では論外です。ジャズですから演奏がどんどん変わっていきます。それは面白くて、まさにジャズの掛け声のように「イエーイ」なのですが、でも舞台のクラシックのプロたちには、ちょっと大変だったかもしれません。

### 拍手そしてまた拍手

本番は最高の演奏となりました。お客さまはこの刺激的なコンサートに興奮、そして本当に楽しそうでした。拍手、掛け声。<ラブソディ>が終わると大喝采。そしてアンコールは<A列車で行こう>。会場は前半ですっかり盛り上がり過ぎてしまいました。舞台袖に戻っていたら指揮者金さんは前半でエネルギーを使い切ってしまったかのように、後半のドヴォルザーク大丈夫かなあと心配そうでした。会場に一体感がみなぎっているので<新世界>はきっと素敵になるはず、との私の予想は嬉しくも見事的中しました。これまで聴いたどの<新世界>よりも、エネルギー、それでいて温かさにあふれた演奏となりました。

### いただいた感動のお声から

アンケート結果を少しご紹介しましょう。ほぼすべての方が非常に良かったに をつけていらっしゃいました。「横浜から来た甲斐がありました。」「聞きなれたドヴォルザーク9番の素晴らしさを、あらためて実感、初めて感動しました。」「金さんと椎名さん、素晴らしかったです。またぜひ共演の機会を。」「垣根のない演奏会。セッション、バランス、コラボすべて、心に奥深く浸透しました。」「音楽こそ、頭の栄養素。気持ちよく酔えました。金さんのめりはりのある指揮、ダイナミックかつデリケートな表現、とても素晴らしかったです。」「感動で涙がほほをつたいました。」「親や夫の病気の看護の疲れも忘れ、とても楽しく過ごしました。生き返ったようで、無理して出てきてよかったです。」「

アンケートに、このような感想を並べていただけるような演奏会を今後も企画していきたいと思えます。ただオーケストラの演奏会となると、赤字は必至です。クラシック音楽の素晴らしさを1人でも多くの方々に伝えるために、市川でしか開けないユニークな演奏会を企画していくつもりです。どうぞこれからもご期待ください。